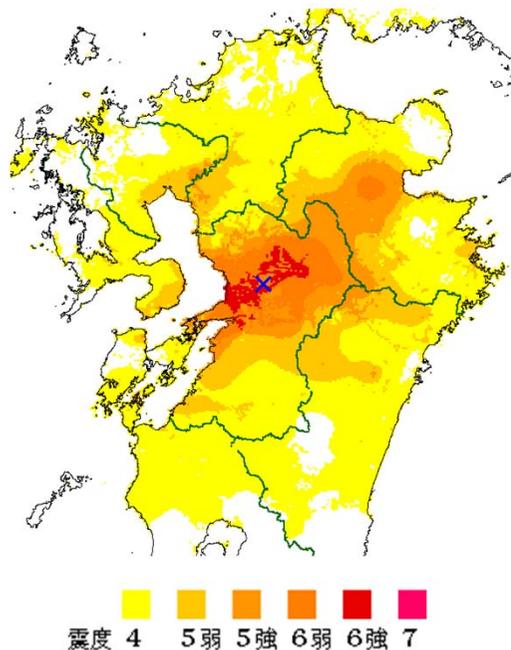


平成28年熊本地震にかかると被害状況

- 4月14日(木)21時26分に熊本地方を震源とするM6.5、最大震度7(熊本県熊本)、4月16日(土)1時25分に熊本地方を震源とするM7.3、最大震度7(熊本県益城町、西原村)の地震が発生。
- 4月14日(木)21時以降、熊本県熊本地方、阿蘇地方、大分県西部、中部では震度1以上の地震を1,397回観測、震度5弱以上は18回観測(5月12日(木)12時現在 気象庁資料)。
- これらの地震により、建物の倒壊、土石流・地すべりの発生、道路・河川施設の被災、電気・水道等のライフライン施設の被災、交通機関の被災等、広範にわたり甚大な被害が発生。
- 死者49名、住宅は全壊 2,654棟、半壊 4,199棟、一部破損 28,201棟、被害分類未確定38,948棟(5月11日(水)12時時点 非常災害対策本部(内閣府)資料)。
- 被災状況調査、被害拡大防止など迅速な応急対策や早期復旧を図るため、被災地における自治体の初動体制を支援するTEC-FORCEを派遣。

推計震度分布図(気象庁)
平成28年4月16日 1時25分 M7.3



主な被災状況



中国地方整備局のTEC-FORCEの活動状況

- 4月14日(木)21時26分の前震発生後、**直ちにTEC-FORCE先遣班を派遣**(4月15日(金)AM3時)。
- 全国からTEC-FORCE隊員(リエゾンを含む)延べ8,782人・日が派遣され、うち中国地方整備局(リエゾンを含む)延べ754人・日(4/15~)が活動(全体の約9%)(5月10日時点)。**全国全ての整備局等からTEC-FORCE隊員を派遣することは初めて。**



先遣班の出発式(中国地整内)



全国から参集したTEC-FORCE隊員の集結式
(九州地整内)



遠隔操縦式(分解組立)バックホウの輸送
(中国技術事務所)



被災状況調査班、リエゾン等の出発式
(中国地整内)



司令部の状況(九州地整内)

被害拡大防止及び応急対策のため、機械等を支援

- 対策本部車(1台)の他、照明車(9台)、遠隔操縦式(分解組立)バックホウ(1台)、遠隔操縦装置(2台)、衛星通信車(1台)など**災害対策用機械として延べ246台・日を支援**(5月10日時点)。
- あわせて、中国地整管内の各事務所と災害支援協定を締結している民間の建設会社等15社を派遣。
- 遠隔操縦式(分解組立)バックホウを活用し、二次災害を防止しながら支援活動を実施。
- その他、飲料水4,764ℓ、非常食2,000食、土のう袋20,000袋、ブルーシート600枚といった緊急物資の支援についても陸上輸送だけでなく、海上輸送も実施。



対策本部車の派遣



遠隔操縦式(分解組立)バックホウによる土砂撤去
(阿蘇大橋周辺)



照明車活動状況(熊本市南区・緑川左岸)



海上から被災地への緊急物資輸送
(海面清掃船「おんど2000」の活用)



衛星通信車による画像伝送支援(阿蘇大橋付近)

中国地整のTEC-FORCEにおける主な活動

① 地方自治体所管施設の被災状況調査



② 国道57号(阿蘇大橋地区)の道路復旧



③ 土砂災害危険箇所の緊急点検



④ 市町村支援



道路・河川の被災状況調査

- 道路・河川の被災状況調査班等を順次派遣し、**被災状況の迅速な把握、早期復旧に向けた技術的支援を実施。**
- 熊本と大分を結ぶ大動脈である国道57号の道路啓開や、道路班による阿蘇市など5市町村における国道・県道・市道など約190箇所の被災状況調査、河川班による益城町など2市町における秋津川など約120箇所の被災状況調査を実施。
- 「余震が続く中、短期間で調査をして頂き感謝している。この成果を一日も早い復旧につなげたい。」と、地元首長から言葉を頂いた。



国道57号 被災状況調査(南阿蘇村)



秋津川被災状況調査(益城町)



益城町内での地元住民への聞き取り



道路の被災状況調査(阿蘇市)



布田川被災状況調査(益城町)



熊本県知事へ調査結果を報告

阿蘇大橋の復旧検討支援

- 南阿蘇村の重要な幹線道路である国道325号阿蘇大橋の被災により、**橋梁架け替えの検討及び迂回ルートを検討する被災状況調査班を派遣。**
- 検討にあたっては、本省、関東地整、九州地整と連携し、阿蘇外輪山の道路など迅速に現地調査を行い、ルートや復旧工法を選定し、関係機関と協議しつつ、早急に復旧工事が進むよう実施。



阿蘇大橋付近被災状況(南阿蘇村)



阿蘇大橋付近 現地調査(南阿蘇村)



東海大学との打合せ(熊本市)



関東、九州地整との打ち合わせ状況
(熊本河川国道事務所内)



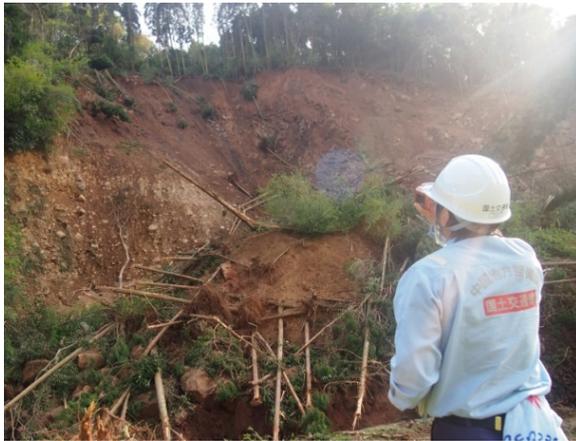
熊本県との打合せ



施工業者と現地での打合せ

土砂災害危険箇所調査

- 砂防班による被災状況調査として、**土砂災害危険箇所の緊急点検を実施。**
- 1,000箇所を超える危険箇所を、他地整と連携し、迅速に被害状況を把握。
- 中国地整としては、益城町など4市町村における約110箇所の危険箇所調査を実施。
- 「我々では、状況把握に限界がある。難しい調査を国土交通省の高い技術力を持った方々に調査していただき、本当にありがとうございました。」と、熊本市長らから感謝の言葉を頂いた。



土砂災害危険箇所調査(益城町)



土砂災害危険箇所調査(益城町)



土砂災害危険箇所調査(熊本市西区)



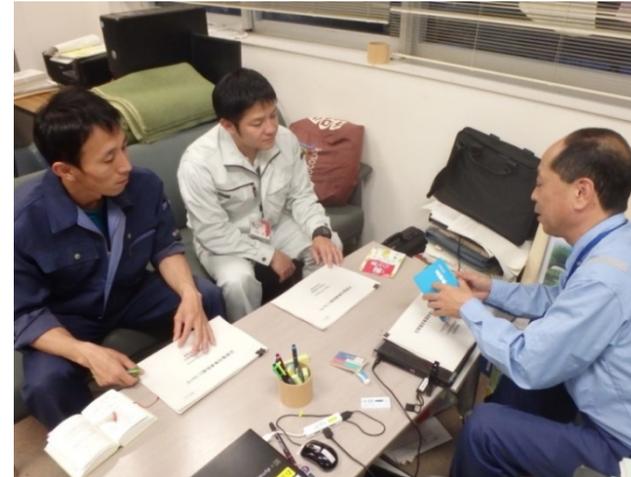
宇城市長へ成果報告(宇城市役所)

リエゾンの活動

- 市町村からの様々なニーズを迅速に把握するため、**嘉島町に事務所幹部職員をリエゾンとして派遣。**
- 被災した地域外の整備局からのリエゾン派遣は、東日本大震災以来。
- 「国土交通省には、早く来て頂き大変助かった。専門技術者の立場で様々な調査もして頂き安心しました。本当にありがとうございました。」と、**嘉島町長から感謝の言葉を頂いた。**



地震災害対策会議の状況(嘉島町役場)



嘉島町職員へ災害査定業務の技術的支援(嘉島町役場)



リエゾン活動状況(嘉島町役場)



嘉島町長へ調査結果を報告(嘉島町役場)

市町村の多様な要望に対する支援

- 市町村の多様な要望に対し、迅速に対応するため、**河川及び道路などの専門技術者を混合した調査班を派遣し、被災状況調査等を実施。**(熊本市、宇土市、嘉島町、菊陽町、南阿蘇村)
- 建築物の**「応急危険度判定」の調査班を派遣し、熊本市など2市町における約150箇所の家屋等の調査を実施。**
- 応急対策班と民間のスタッフが一体となって、**避難所における照明活動を実施**(益城町)。



床瀬川橋(村指定有形文化財)被災状況調査
(南阿蘇村)



橋台側壁破断状況調査(南阿蘇村)



「応急危険度判定」調査状況(熊本市)



道路の被災状況調査(南阿蘇村)



南阿蘇村 副村長へ調査結果を報告



益城町役場における照明車活動状況